

～江府町内の“あげなこと”
“こげなこと”をお届けしたい～
…そんな思いから始めました♪



11月号



令和5年11月11日発行
[発行元] NPO法人こうふのたより
[編集長] 上野 真
[タイトル] 藤井 聖子
[イラスト] カジタニノリコ

こうふのたより

= キラシブック <Vol.75> =



*本誌掲載の写真、イラスト及び記事の無断転載を禁じます。

= 編集後記 =

江府町に住むようになって、四季折々の景色に魅了されることが多くなりました。その度にスマートフォンのカメラで景色を撮るので、気付いたら子供達の写真と同じ位の量の景色の写真でいっぱいになっています。最近のベストショットは、「御机の茅葺小屋とコスモスと大山」です。是非、皆さんも江府町の素敵な景色を楽しんでくださいね♪ (ツツイ)

● 掲載記事等に関するお問い合わせは編集長・上野まで。 ☎080-3011-5506 ●

Party for kids

いせかいひろば 異世界広場

～この日、上の段広場は異世界になる～

Guest
MC



日野高校魅力向上
コーディネーター
稲田茂

2023.11.26 日曜日

14:00
～
19:30

会場:上の段広場
(小雨決行 / 荒天時:山村開発センター)

打ち上げ花火 300発

19:10～

打ち上げ場所:町民グラウンド
※荒天時は翌日に延期



えびちゃん BINGO

- ・超豪華景品アリ
- ・ハズレなし

対象:0歳～高校生の方

シート販売 15:00～(300円 / 先着 300名)

ビンゴ 17:50～ ※対象者 1名様につき 1枚まで。

※売上金は地域の子供たちがより楽しく快適に利用できる場所となるように江府町立図書館へ寄付します。

15:30～

鳥取で5分70分



18:50～

三代目波留

maru

ライブ演奏

屋台も出るよ

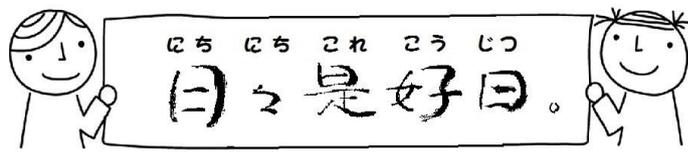


リョウター ライトアップ

17:00～







◆コラムを書くと言っではみたものの。その70（江府町制施行70周年とかぶる偶然）◆

『コラムを書くと言っではみたものの』。なんだかんだで、70回も続いてしまった。熱しやすく冷めやすい、集中力に乏しく、ノリと勢いだけで瞬発的に行動する（その結果、失敗して周囲にかけた迷惑は数知れず↓）…半世紀以上、その生き方こそが「継続は力なり」と思ってきた私が、6年近くもの長い間、時に沸騰し、時に平温にもどり、このコラムを書き続けている。ということはつまり、人の迷惑顧みず自分の立場もあまり考えず気ままに「猛毒を吐き続けている」とも言えるのだが、政治不信や日本で起きたあらゆる事件…そういった「読む人すっきり！ネタ」はもちろん、そこら辺のどこにでもある「小ネタ」を社会問題として提起してきた自負がある。

例えばこんなこと。

…「おーい、誰かおるう？」階下からの声。「あのな、熱もあるしノドが痛いけん寝とるだがん。ご飯の時間になったら作るけん、それまでそっとしといてほしい」「そげか。ごめんごめん」…コントみたいに繰り返した。新型コロナウイルス感染症が、2類から5類に移行した週（GW明けとも言いますね）、コロナとインフルエンザ、両方の検査を受けるもいずれも「陰性」で、発熱と喉の激痛にのたうちまわっていた時の、我が家の高齢者とのやり取りだ。健康な状態なら持てる余裕も、自らの体力を消耗している中では、精神状態急降下、人を思いやる尺など1ミリもない。そういう状態の時、なぜかほじくり思い返すのが、「目の前にいる親から愛された記憶がない」…逆に介護せねばならない状態になって「そう言えば、がんばって褒められたり、よしよしと抱きしめられたことなんか、記憶にない」。それでも幸か不幸か、同じ屋根の下で暮らし、ネグレクトなどと揶揄されん程度には関わっているのだから、心の中で、「これって、いつまで続くのか」と毒づくくらいは、神仏もお許しくださるのではないか…。

一見、連れ合いに先立たれた親（80歳代・女）と、嫁ぎ損ねた娘（50歳代後半）の、ありがちなやり取り。だが、このネタには複数の現代社会問題が隠されている。「記憶機能がおかされる認知症」、「8050」、「生涯続く愛着障がいの影響」、「高齢者介護」…。ちょうどこの頃、朝読で一気読みしたのが『寿命が尽きるか、金が尽きるか、それが問題だ』（こかじ さち著）。

90歳の両親に加え、子どものいない、しかも浮世離れした叔父夫婦の面倒までふりかかり、著者は自分の仕事時間を削って、それでも家の掃除や各種の手続き、通院の同伴…とさまざまな苦行を日々こなす。そしてふと、自分もこんなふうになるんだろうか…とやるせなくなる、と。こかじさん！共感です（首を縦にブンブン）！几帳面なあなたはちょっとわがままなだけの高齢者かもしれないけど、すでに、片づけに相当の困難を持つ私としては、「ゴミ屋敷」（これも大きな社会問題）と化した部屋を他人に片づけでもらうやもしれんという危惧が大いにあります。こかじさんの壮絶な介護から、我が身の周囲を見渡してみたとき、この夥しいまでの本の山、クローゼットの服は、他人からしたら母がため込もうとするプラスチックトレイと何ら大差ない…せめて本棚から出して、結わえて捨てる、くらいの手間で済むようにしておきたいと、読後感として固く心に誓ったものでした（長続きしないという弱点付きで）。

社会的深刻な問題であり、笑っている場合ではないけど、もう笑うしかないことが、このように我が身の周囲にはあふれています。…みなさまの周りはいかがでしょう？【いくたしほ】